

泥が輝く話

えみ(pioplup)

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは、星に敗れた泥を星が羨むほど推す物語です。

でしたが、続かないので終わりです。ありがとうございました。

目次

本編

第1話	A t T h e B e g i n n i n g	1
第2話	L o n e l i n e s s	4

本編

第1話 At The Beginning

Side ジョナサン

君との奇妙な縁は、また僕らを繋いでる。そう思ったんだ。

——12年前 ジョースター邸

僕はジョナサン・ジョースター

家族に弟がいて、ジョセフとジョニイ。

2歳下のジョセフはいつも元気がいっぱい（父さんにいつも怒られてるけど）で、5歳下のジョニイは動物が好きな優しい子。

……僕？ 僕は弟にはよく鈍臭いって言われるなあ。。

いつもの様に遊んでいるときを父さんが集めて言ったんだ。

「ジョナサン、ジョセフ、ジョニイ、よく聞きなさい。1週間後に新しい家族が来ることとなった」

「……新しい家族？」

まるで雷が落ちたようだったよ。

「父さーん！ それって!？」 「……再婚するの？」

「いや、友人の子供たちを引き取るところになったんだ」

……いけない。衝撃が強くてぼうっとしてた！

子供って僕たちぐらいなのかな？ どんな子だろう？ それより

も！

「ねえ、父さん！ その子って何て名前なの？」

「ああ、ブランドー家の3兄弟でね、ジョナサンと同じ年の双子のDIOくんとディオくんジョニイと同じ年のデイエゴくんと言うんだよ」

ディオ、DIOと同じ発音な筈なのにディオだけ際立って聞こえた

んだ！

「うわあ！ 似た名前した奴らだぜ！」

「それ言ったら僕とジョナ兄も似たようなもんじゃん」

「お、お前らは良いんだよ！」

、

…ディオ、ディオかあ！ なんだかすつごく気になる名前だ！ …
なんでだろう？ 来るのが楽しみだなあ、！

君を見たら今まで足りなかったものがわかったんだ！まへの記憶
でしつかりと！ だから、僕は言ったんだ。

「君が、ディオ・ブランドー？」

「そういう君は、ジョナサン・ジョースター」

…ふふ、返す言葉も同じだ。

僕と君が出会った、新しい奇妙な運命も動き出していた。

Side ジョニー

父さんに言われたとき、胸がモヤモヤするのをジョセフで紛らわし
てたけど、勘違いじゃあなかった！

、やけに胸騒ぎが、すると思っただんだ！

馬車から出てきたお前…！記憶が！はつきりとわかった！

あいつは！

「ディオゴ!!」

僕はまだ許さないぞ！2度目の世界だからって！

あいつは突然僕が呼んだことに驚いたように目を瞬く。マヌケ顔

だ。

、なんか、前のデイエゴと違って雰囲気柔らかいような…？ いや、あのD i oがそんな訳ないだろ！

「あ、ああ。僕はデイエゴ・ブランドー、君はジョニー・ジョースターだろ？よろしく」

……な、な！なんかふんわりと微笑んでるんだけど!!!あのデイエゴが!?嘘だろ！絶対中身に別人が入ってるだろ！

……中身…？もしかして、僕はあいつを見た時に思い出したけど、あいつは思い出していないのか？あの世界の記憶を！

第2話 Loneliness

No Side

記憶を思い出した2人のジョジョがそれぞれデイオに話し続けるのは至極当然の結果だった。

だが！その空間についていけない者が2人居た！

方や、兄弟が馬車からの下車後に起きた状況により出口を塞がれ、降りるに降りれず困惑中の金髪美少年と、

先日まで知らなかった子供と仲良さげの兄弟を呆然と見つめるマフラを着けた美少年だ……

……大変眼福であるゲフンゲフン。

そう！DIOとジョセフのことである！

ジョセフの傍に居た犬（もちろんダニーだ）がクウンと心配そうに鳴き、ペろりと手を舐めた。

そのことで、やっとシヨックから回復出来たジョセフは、ダニーを一瞥し、DIOを見て、ダニーと向き合った。

「……ダニー、あいつ等あんなに楽しそうにしてさ、いつの間に知り合ったんだろうな、？俺だけハブリかよ……」

そう言つてダニーを抱きしめる。

実際は、主人公とラスボス前回の深い仲だった為、記憶が蘇ったのであるが、カーズと出会つてないジョセフには解らない話である。

そんな風にしんみりとしても容赦無くわがままを言うのが、例え記憶が無くてもDIOの通常運転である！

真の帝王は目で殺す！と言わんばかりの眼光の鋭さだ!!

(状況が状況だけにその格好は少し間抜けだが)

そんな目線は2人だけの空間×2この状況から目を逸らしたジョセフにのみ注がれる

！

だが、意外ツ！実はジョセフも ちこーっと だけ、思ったことが あった！

そう！D I Oの顔を見ると無性にムカつくのである！

あの究極生命体との勝負に勝った男が、確かに1度殺されたのだから 感情を思い出すのも無理もない。：無理もない。

そんな訳で、ジョセフは恨みがましく睨んでくるD I Oを無視して 先に家に入るのであった。

：ちなみに混沌とした状況はジョセフしか帰ってこないことに気づいた家主のジョージが来るまで続いた。

「このD I Oがアーツ」

チャンチャン♪

「ジョナサン、ジョニイ、ディオくん達は遠い所から来たばかりなんだから、ゆっくりさせてあげるんだ」

ジョージは やれやれ と言わんばかりにゆっくり首を振る。

そして、ディオたちに向き直り、

「では君たちの部屋に案内しよう、ジョジョたち、荷物を代わりに持つてあげなさい」

と仕切り直したのであった。

ここで、前回のおさらいをしよう。

1回目のディオはジョジョが荷物を持つことを強烈に拒否した。

が、ここはn巡目 悪 優遇 時空！

ツンデレはあるが、ゲロ以下では無かった。